

Living the Lotus 9

2023

Buddhism in Everyday Life

VOL. 216



立正佼成会 台北教会

Living the Lotus Vol. 216 (September 2023)

【発行】立正佼成会 国際伝道部

〒166-8537

東京都杉並区和田2-7-1 普門メディアセンター3F

Tel: 03-5341-1124 Fax: 03-5341-1224

E-mail: iiving.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

編集責任者: 赤川 恵一

編集チーフ: 三川 紗知

校閲者: 小坂 和正、菊池 克之

編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼脇祖によって創立された、法華三部経を所依の經典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鏡会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life (法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。



欲ばりは煩いのもと

立正佼成会会長 庭野日鏡

貪りが招くわざわい

「天高く馬肥ゆ」といわれる秋は、食欲の秋ともいわれます。暑さがやわらぎ、食欲も増してなんでもおいしくいただけるのはありがたいことです。ただし、食べすぎて後悔することがないように、ほどほどを忘れずにいたいものです。

食欲旺盛で、少し体重がふえたという悩みなら食事の量を控えることで解消しそうですが、釈尊は「いろいろな欲望を貪り求めると、諸々の煩惱が彼に打ち勝ち、危ない災難が彼を踏みにじる」という表現で、貪るほどの欲深さがいかに身心にダメージを与えるかを教えてくださいました。それにしても、欲がすぎると「危ない災難」に踏みにじられるとは、いささかおだやかではありません。

このスッタニパータの一節によれば、「田畑や宅地、婦女や親族その他いろいろな欲望を貪り求めると」とありますから、金銭や財産に対する過剰な欲とか愛欲へのとらわれなどが自他の妬みや怒りや憎しみを生み、それがもとでトラブルという災難が降りかかってくるということでしょう。あるいは、「あの人は欲ばりだから」と疎まれたりするストレスが、体調にも影響するという災難も考えられます。

釈尊は、「食欲の生じた人が、もしも欲望を果たすことができなくなるならば、彼は矢に射られたように悩み苦しむ」ともいわれます。当時、釈尊は実際にそうして人が苦しむ様子を見聞きされたのでしょうし、欲ばるあまり周囲の人とけんかが絶えず、ときには暴力によって傷つけられるという災難に見舞われた人がいたかもしれません。欲望を貪り求める人には、健康的な人生とはほど遠い苦しみが待ち受けている、ということを釈尊は肌身で感じられたのです。

社会的動物といわれる人間ですが、必要以上に食らない他の動物とは違って、私たちはときに欲望に歯止めがかからなくなります。それゆえ、利他の心を忘れずに欲望をほどほどに抑える日ごろの精進が欠かせないのです。

足ることを喜べる幸せ

ただ、私たち人間の欲そのものが悪いわけではありません。釈尊は「すべての人を救いたい」という大欲をいだかれ、慈悲心と利他の思いに根ざすその大欲を追い求めて、ついにだれもが幸せになれる真理・法を悟られました。もちろん、釈尊と同じ欲は私たちの命にも組みこまれていて、それが人類の発展や向上の源にもなってきたのです。

しかし、欲も制御がきかなくなると「煩惱」に変わり、文字どおり煩悩に悩むこととなります。思うとおりにならなくて苦しみ、自分の満足を得るために見境がなくなって人間関係をそこなうなど、さらなる苦に苛まれるのです。そうならないよう、仏教では「少欲知足」——欲を抑えて足ることを知る——の大切さを教えています。これが実践できれば、欲望の暴走による身心のわずらいも遠ざけられるのですが、わかっているにもかかわらずできない私たちです。

そこでもう一つ、「少欲」の「少」を「小」の字に変えた「小欲知足」という表現をご紹介します。印象はほとんど変わりませんが、パーリ語(インドの古い言葉)の「小欲」と「知足」にあたる言葉の意味にしたがうと、「小欲知足」とは「必要十分な量であることに喜んでいる」という意味あいになるようです。三蔵法師の名で知られる玄奘は、「知足」の意味するところを深くとらえて「喜足」と言い換え、足ることが喜びと伝えています。必要十分な欲が満たされることこそが喜びと知ると、足ることの喜びを味わいたくて、自然に欲が抑えられそうです。しかも、足ることを知りなさいと諭されるよりも受け入れやすく、気持ちを楽にして欲のコントロールができるのではないのでしょうか。

そして何よりも、必要十分な量で喜べることほど健康的で幸せな生き方はないと、私は思うのです。

(『佼成』2023年9月号)



Spiritual Journey

仏性礼拝をとおして頂いた功德

スリランカ教会
パーシー・ウィジェラトネ

この体験説法は、2023年6月4日にスリランカ教会で行なわれた
「教会発足25周年記念式典」で発表されたものです。

皆さん、こんにちは。

スリランカ教会発足25周年の記念式典に説法のお役を頂きありがとうございます。

私はパーシー・ウィジェラトネと申します。1961年8月21日生まれで、現在62歳です。19歳のとき政府の仕事を請け負う会社に就職し、その後30歳で妻レイヌカ・ジャヤンティと結婚し、娘がひとりいます。

1997年、会社の同僚の息子さんが鉄道事故で亡くなりました。社員の家族のため会社が葬儀を行なうことになり、私が葬儀の担当になりました。葬儀のあと、息子さんを亡くした同僚も、悲しみのあまり自ら命を絶ってしまいました。その同僚の葬儀も私が担当しました。

その後、占いに詳しい会社の同僚が、二人の死はホロスコープが示すとおりだと言うのを聞いて、私はホロスコープに関心を持ち、勉強を始めました。私にホロスコープを教えてくれた先生は仏教にも詳しく、私はその先生から仏さまの教えも学ぶようになりました。

そのとき、ホロスコープの教室で一緒に学んでいたスナンダ・ティラカラトナさんは立正佼成会の会員で、私はスナンダさんのお導きで1998年に佼成会に入会しました。以来25年間、開祖さまの教えは私の生活に欠かせないものになりました。

入会して間もなく、南アジア国際伝道センターの島村雅俊センター長さんから初めて立正佼成会の教学を学びました。その後も多くの日本人のリーダーの方々から教えを学ぶことができました。また、本部主催の海外リーダー教育の一環として、三鷹教

会、船橋教会、春日部教会に実習に行かせていただきました。

2009年、スリランカ支部は教会に昇格し、最初の教会長として着任されたのが山本宜亮教会長さんでした。

その頃、私は人間関係でさまざまな問題を抱えていました。私は常に自分が正しいと考え、自分の言うことを聞いて欲しくて、毎日のように誰かと言いつ争いをしていました。家庭のなかでは自分がいちばん偉いと思い、妻や娘の意見に耳を傾けようとしませんでした。

そんな私に、山本教会長さんは「自分の心の中に仏性があることを信じてください。そして自分の心にある仏性は、他人の心の中にもあることを信じて、合掌礼拝してください」とご指導くださいました。そして、身のまわりのあらゆる現象は、仏さまの説法であることを教えてくださったのです。

2016年に私は35年間勤めた会社を退職し、立正



ポヤデー(2023年4月5日)にスリランカ教会で行なわれた式典の後、法座で挨拶をするパーシーさん(左から3人目)

校成会に奉職しました。その後、山本教会長さんと教会のお役に組み込ませていただく中で、私の人生は大きく変わりました。常に感謝と柔和忍辱の心を大切に、家族やサンガの皆さんの心の中にある仏性を信じ合掌礼拝することで、自分の仏性が成長していくのを感じました。

2019年、山本教会長さんが退任され、鈴木啓修教会長さんが着任されました。鈴木教会長さんは「1. 時間を守る、2. 整理整頓をする、3. 礼を正す」という3つの実践を大切にされています。私は時間を守ることが苦手ですが、毎日の実践をとおり、時間厳守を心がけています。

鈴木教会長さんが教えてくださったとおりに、一人ひとりの信者さんを大切にしていると、信者さんたちから信頼していただけるようになり、なによりも自分自身が信者さんを信頼できるようになりました。

そして他人に指示をしてものごとを進めようとするかわりに、自ら率先して行動できるようになり、そのことが人生をより良い方向に導く道であることにも気づきました。

2020年に妻ががんの手術を受けたときは、サンガの皆さんがキャンディにある仏歯寺やアヌラーダプラのスリー・マハ菩提樹に参拝し、手術の成功を祈願してくださいました。またある信者さんの娘さんは医師としてがん病棟に勤務しており、その方からもたくさんの助言を頂くことができました。妻の病気をとおして、仏さまは私にサンガの大切さと仏性礼拝の功德を教えてくださいましたのだと思います。

鈴木教会長さんからは、どんなに好ましくない現象も良い方向に転換できることも学ばせていただきました。

3年前に始まった新型コロナウイルスの感染拡大で、国内全域に外出禁止令が出され、信者さんは教会に参拝することができなくなりました。すると、

教会長さんは「スリランカの風」というSNSサイトを立ち上げ、信者さんたちに向けて毎日開祖さまのご法話を配信してくださるようになり、これまでにその数は1000回を超えました。教会長さんの姿をとおして、私は継続することの大切さを学びました。コロナの感染拡大という悪条件の中でも、最善の努力を尽くす教会長さんの後ろ姿から、しっかりとお役をやり遂げることの大切さを学ばせていただきました。

鈴木教会長さんは教会内の掃除だけでなく、週1回、教会の周囲の道路も掃除されています。教会長さんに倣って、私も時間をしっかり守り、心を込めて教会の掃除をさせていただきます。そして、日々ふれ合う皆さんの仏性を合掌礼拝し、感謝の心で仏さまの教えを実践していくことをお誓い申し上げます。

本日は説法のお役をたまわり、ありがとうございました。



「家庭拠点」で行なわれたご供養で導師を務めるパーシーさん。スリランカ教会では円滑な布教活動を支えるため、多くの会員宅が布教の拠点（「家庭拠点」）として位置づけられている。

まんが 立正佼成会入門

お釈迦さまの生涯と仏教の教え

ものごとのほんとうのすがた

法華経は、この世のあらゆるものごとのほんとうのすがたを見ることの大切さを説いています。この「あらゆるものごとのほんとうのすがた」を「諸法実相」といいます。

私たちは、さまざまなできごとに接したときに、自分の思いに基づいて対象を判断します。

たとえば、道を歩いているときに大きな石が落ちていたら、大半の人が「邪魔だなあ……」と思うのではないのでしょうか。

しかし、石の立場から見れば、石は石としてそこに存在しているだけであって、人間を困らせようとしたり、災いをもたらそうとしているわけではありません。つまり、「邪魔だなあ……」というのは、あくまでも私たち人間のものごとの見方に過ぎないのです。

このように、私たちは自分の先入観や好ききらいでものごとや対象を判断しがちです。そして、私たちがそのように対象を見ると、その対象のほんとうのすがたは見えなくなっています。

法華経は、ものごとのほんとうのすがたを見るためには、人や物、できごとなどをありのままに見ることが大切だと説いています。



● 豆知識

「諸法」とはすべての現象、「実相」とはほんとうのすがた、の意味。『法華経』には「諸法の実相は、ただ仏さまだけがみることができるとあり、あらゆるものごとを先入観なしで見えていくことの大切さを説いている。

まんが 立正佼成会入門

お釈迦さまの生涯と仏教の教え

三車火宅のたとえ

法華経には七つのたとえ話があります。これをまとめて「法華七論」といいます。

「法華七論」は、むずかしいとされる法華経の教えを物語によってやさしく説いたもので、その最初が「三車火宅のたとえ」です。

ある国に荒れはてた長者の家がありました。その家が火事になりました。中にいる子どもたちは火事に気づかずに遊んでいます。外にいた長者は大声で注意しますが気づきません。

そこで長者は子どもたちがいつも欲しがっていた羊の車や鹿の車や牛の車が外にあることを知らせます。それを聞いた子どもたちは燃えさかる家からようやく出てきました。長者は無事を喜び、欲しがっていたものよりすばらしい大白牛車という車をみんなに与えたという話です。

長者は仏さま、子どもたちは私たち、荒れた家は私たちが執着するこの世間、火事はすべての苦しみ、それぞれの車は教えの種類を指します。欲望にふけりがちな私たちを、真実の世界へと上手に導いてくださる仏さまの智慧と慈悲を表現したたとえ話です。



豆知識

三車とは羊の車・鹿の車・牛の車。仏になる道として、声聞・縁覚・菩薩の三つがあることを意味するが、仏さまはどの修行をした人にも最高の教え「大白牛車」を与えてくださった。『法華経』「譬喩品第三」にある話だ。



すべてが仏という世界

一人として成仏しない人はない



立正佼成会開祖 庭野日敬

法華經の教えを信受する仲間^に囲まれてい^{れば}、迷^うことはありませ^ん。自分一人では解決^がつかないような問題^も、大勢^の人の体験談^や知恵^を聞かせてもら^{うと}、出会う「縁」のすべて^を自分の「仏性」を開かせてくれるもの^{だと}受けとめて、対処^{して}いくことができます。

仏さまの本願^は、すべての人^を仏にする^{こと}にあります。私が立正佼成会^を創立したのも、仏さまの「一大事の因縁」^に後押し^{されて}のこと^{です}。そして佼成会^は、多くの人の真心^に支えられてある^{のです}。会員^のみなさんが「一人^が一人^を導く」というように、身近な方^をご法^の道^に案内^{する}ことこそ、真^の仏子^だと思^{いま}す。

「己^を忘れて人^{さま}のために利^{する}」行^{ない}が自然^とできる人^{たち}が、一人二人と増えていく^{とき}に、「若^し法^を聞^くことあら^ん者^は 一^りとして成^仏せず^ということな^{けん}」(方便品)というお経文^のありがたさ^が、実感^{として}迫^{って}くる^{のです}。



欲のトリセツ

国際伝道部長
赤川 恵一

皆さん、こんにちは。会長先生は今月のご法話の中で、私たち全員に備わっている「欲」の問題を取り上げてくださいました。「欲」そのものは扱い方によって益にも害にもなるものと思いますが、「欲の皮が張る」という言葉が示す通り、制御がきかなくなって「煩い」や「苦しみ」の原因となってしまう経験は、誰しも持ち合わせているのではないのでしょうか。

ご法話には「少欲知足」のほかに「小欲知足」「喜足」という興味深い言葉も紹介されております。「足ることの喜び」に立ち至ることができれば、どれほど人は充実感に満たされるだろうかと、日常生活の中で実感してみたい衝動にかられました。佼成会とのご縁に導かれ、開祖さまや会長先生という人生の師に出会えたことに感謝し、法華経の教えを通して少しずつ仏教の奥義に近づき、修行の仲間とともに実践の功德を味わう喜びを、改めて求めてみたくなるご法話でした。

お釈迦さまの「仏の十号」のなかに「調御丈夫」という仏徳を称える尊称が挙げられております。利他の心を忘れずに、欲望をコントロールできるよう、日ごろから修行精進して参りたいと思います。

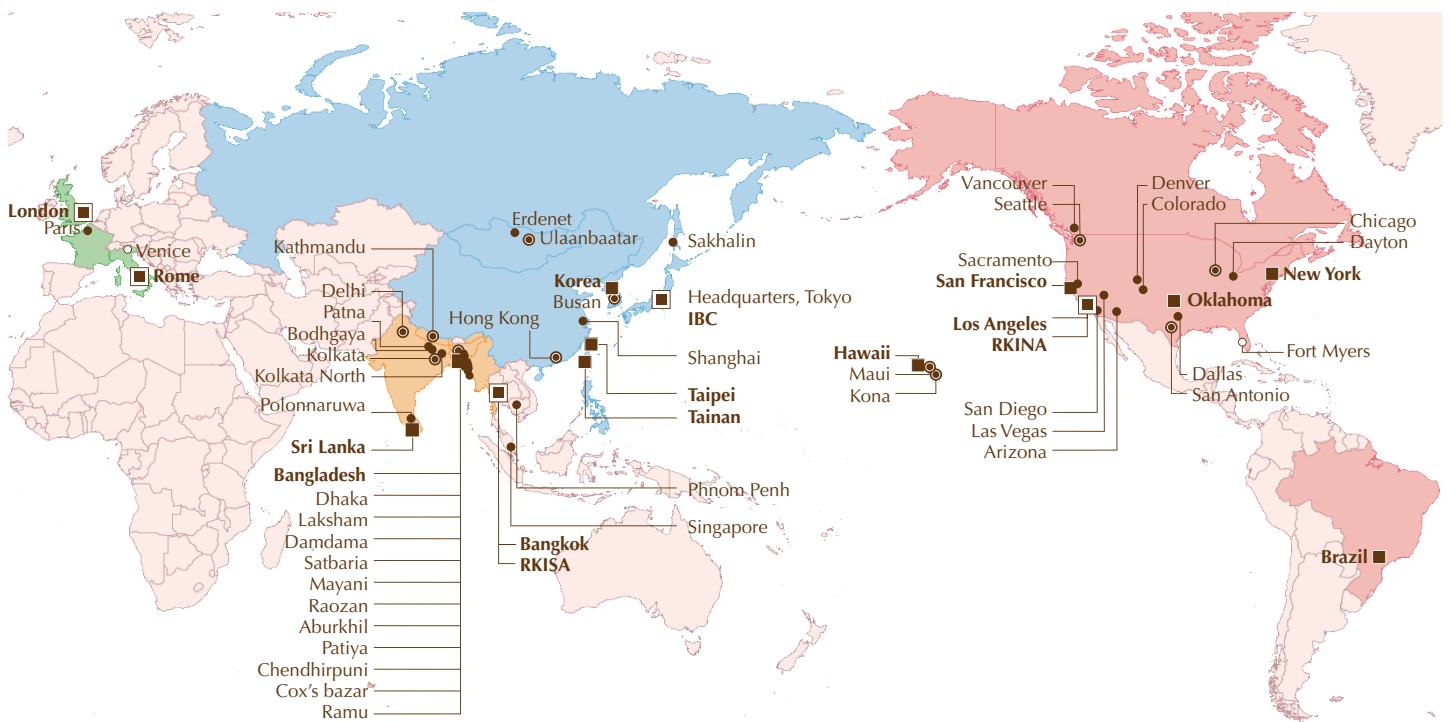


Rissho Kosei-kai International

Make Every Encounter Matter



🌸 A Global Buddhist Movement 🌸



Information about local Dharma centers

facebook

twitter



✉ Living the Lotus では、皆様のご意見・ご感想を募集しています。
 お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。
 E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp